

PRESS RELEASE

論文内容の概要 (Relationship between severity of periodontitis and masseter muscle activity during waking and sleeping hours) .

歯周病の重症度と覚醒時および睡眠時の咬筋筋活動の関係について

<目的>

くいしばりや歯ぎしりなどの非機能的な筋活動と歯周病の関係についてさまざまな研究が行われてきましたが、これらの結果は明らかになっていません。これは、昼夜に発生する実際の筋肉の活動を詳細に継続記録することがこれまでできなかったために、くいしばりや歯ぎしりの有無をアンケート調査で行っていたからでした。そこで携帯型記録計を用いて昼夜の筋活動を記録し、歯周病と非機能的な筋活動の関係を明らかにすることを目的として研究を行いました。

<方法>

さまざまな重症度の歯周病患者の咬筋（咬みしめ時に使う筋肉）の活動を昼夜連続記録することで、かみしめの状態を解析しました。咬筋筋活動の記録には研究グループの講座で開発した携帯型記録計を用いました。また、患者の歯ぎしりの「自覚」と実際の筋活動の関連についても評価しました。

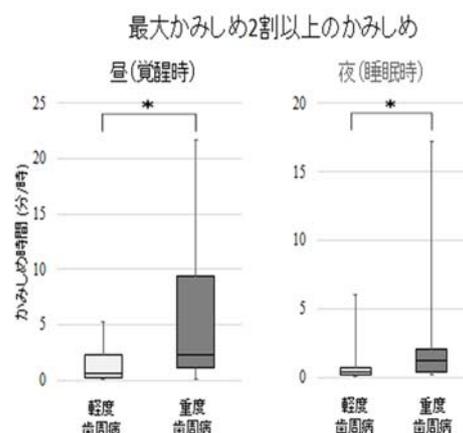


携帯型記録計の装着状態

<結果と考察>

今回の私たちの研究結果から、重度の歯周病患者ほど昼夜の咬筋筋活動時間が長いということがわかりました。また、患者が「自分で歯ぎしりしていると思っていること」と実際の筋肉の活動とは必ずしも一致していないことも明らかになりました。

これらの結果から、一般的な歯周病治療だけでは歯周病の改善がみられない患者に対して、従来の基本的な歯周病治療に加えて新たな検査や治療方法を提案できる可能性があります。



Archives of Oral Biology に掲載された以下の論文から引用

Relationship between severity of periodontitis and masseter muscle activity during waking and sleeping hours. Seiya Kato, Daisuke Ekuni, Shigehisa Kawakami, Acing Habibie Mude, Manabu Morita, Shogo Minagi (<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0003996918300554?via%3Dihub>)